夕刊 磐城新聞
一月二十七日發行
發行所 磐城新聞社

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

一

珠算は算盤と云ふ便利なる道具にて計算する術で運用上極めて簡捷であることは他の方法を遂かに凌いでゐるから我國では上下一般之を用ひて計算して居るのです

所が現今の基礎教育をする小學校に於ては筆算を重點に置き、珠算取扱には除りに注意を拂ふものが少ないが爲めにこの便利な方法を利用出來ず小學校を卒業する者が多いので實社會に立つて活動する上に頗る不便を感じつゝあるように思ふ、小生は毎年一、二の補習學校に於て農村青年の教授に際して實際に体驗した事實を見ても何處の補習學校に於ても、加法も便て出來ない者が若干ある樣である、甚だしき者は二十一桁の算盤を角より角迄置いて後に讀上げる數を置く事が出來ずぼうせんとして居る者さへある有樣である

殊に乘法除法に至つては殆んど出來る者が少い、加減法は位取數の八割五分位迄出來、又乘法は數に依り(簡單な二桁位)ては五割位乃至七割位である。除法(割算)に至つては驚く勿れ二割又は三割位である。其れも最も簡便なる商を得る數字であつて實用向きには成らない者が多い、相當會社等に勤務した方でも二、三割位割算の出來ぬ者がある

そこで如何にしたら小學校及補習學校の樣に時間の少い教授時間に至つて又速成的に珠算の四則を覺えたいと云ふものの爲めに最も易く、最も正確に、最も速く、何人にも會得し得る手近な方法はあるまいかと、明治四十年頃より昨年死去せられし專修大學の石上錄之助先生等苦心研究の結果發表せられし算法こそ本縣出身星先生に依り公にせられし算法にして、昨年より各小學校に於て實施する事に成りました九々いらず算法其の他の便法である

從來やり來たつた割算は割九々といふおぼえにくい九々が總數七十七あつて小學等に於ける掛算九々を用ひて筆算の割算を習つたものには容易に會得し難いことは實驗に徵して明なる事實である

掛算に三、七、二十一と云ふ九々に依り割算に七、六、四十二と云ふ九々を使ふ、是れより紙上を以て諸君に會得して戴くのは三、七、二十一(只今小學校にては七、三、二十一と唱ふ)の九々のみ會得すれば自由自在幾桁の算盤でも容易に出來る頗る便法である併し小生は深く研究したと云ふわけでなく恩師之石上錄之助先生より教授せられたる中繼であり極めて拙劣であります

某飛行機工場 詠

島田忠夫

2

○非常時の活氣みなぎる飛行機製作所ハンマの音ベルトの音エンヂンの音等々
○千臺ばかり並ぶ機械工場の機械群に整然と働く職工等を見よ
○機械統制化されたる大工場内に化學的意識に燃えて働くらしも
○叩きの上に無雜作にころがれる金屬製プロペラの數を見よ空中に飛翔せる場面もちへ見よ
○澄み透りたる熔接の炎のいろ採光よき工場内に白くただ白く

石雞新年句會(五)

於秀山居

『初詣』

石段のうす雪ふめり初詣 向峯
御手洗の靜にあふれ初詣 同
朝戸くる小家もありぬ初詣 同
手洗の氷を割つて初詣 みのり
新らしき旗吊されし初不動 同
初詣下駄の歯輕く歩みけり 同
杳々と杉の下枝や初詣 何鳴
初詣龍頭の水に口そゝぐ 同

社會の今日

1月28日 △ペートル大帝崩ず(一、七二五)△加藤高明伯逝く(大正十五)△ハルピン方面へ長春のわが軍總出動△上海で日支軍つひに砲火を交ふ△上海の邦人紡績工場全部閉鎖(昭和七)△上海事件記念日につき靖國神社で戰歿勇士の慰靈祭を執行△フランスのボンクール內閣辭職す△ドイツのシュライヘル內閣總辭職す(同八)

1月29日 △英國十字勳章創設(一、八五六)△支那國花牡丹を梅に變更す(昭和四)

○

枯蘆の中の流れや鴨の聲 朱城

霜さびて黑く艶だつ葉のかひに批杷の蕾の見ゐそめにけり 太田水穗

講談 幕末神風組

(108) 土生太郎作 高根秀浩畫

神風組(九)

淺野の必殺の劍に薙き立てられて圍みは見る〳〵崩れて行く

だが崩れてはならぬ今の場合である。必死になつて破られまいとする

御木本が第二彈をこめるまでゞよいのだ。破られてはならない

御木本は彈をこめ乍らそれを見た。淺野の劍氣は凄いほど激しい

(ひよつとすると、これは今日も失敗かも知れぬ)

厭なことが頭にピンと來る

(まゝよ、やれるだけやる迄だ)

が、とつさの場合である目前に猛り狂ふ敵を控へての裝彈である。なか〳〵思ふやうに行かぬ

早く――

早く――

早くしなければならぬといふ心が只いら立たせるばかりで、一向に裝彈作業は運ばぬ

『御前、どうしやした!まだでがすか――?』

藤七が心配して近づいて來た

『うむ上總屋、どうも思ふやうに行かぬ、貴公一つやつて見てくれぬか』

御木本は投げ出すやうに云つた

『ようがす……』

藤七は御木本の手から短筒を、その他を受け取ると手早く裝彈し終つた

『出來やした』

『や、これは――』

一旦受け取つて、荒れ狂ふ淺野に狙をつけて見たが餘りに相手が猛り立つて前後左右に奮迅してゐるので的が定まらぬ、がうを煮やした御木本

『貴公頼む、貴公は擊つた經驗があるだらう』

『へゑ人間を擊つたことはありませんよ!』

『いや犬か、猫か、然らずんば鳥位はあらうが』

『へ、そりやあ』

『うまくやつてくれ』

『もし……?』

『天運ぢや』

『それでは、こちらへお貸しなすつて……』

藤七は御木本から短筒を受け取ると淺野に狙ひをつける

だが、淺野が絶えず左右に動いてゐるのと、それに應戰する味方の身体が邪魔になつてどうにも引き金を引くことが出來ない

『御前、どうもこいつあいけませんや……』

藤七が傍らを振り向くと其處には御木本の姿はない

(おや?)と思つて彼方を見れば、御木本得意の棒が亂鬪に圍まれ乍ら淺野と渡り合つて居る

『此奴あ、ます〳〵いけねえ』

藤七は思はずつぶやいた事だ、自然彼の手中の短筒は筒口を下へ向けた

『うつかり、引つ外した日にや、御前を擊つて了ふ』

と、淺野と御木本を取り圍んでゐた劍の垣がサツ!と擴げられた、餘り切迫してゐると、御木本の棒の勢ひをそぐと考へたゝめからである

兩虎は此處に又もや其の秘術を盡して鬪ふのであつた――

だが、所詮御木本は淺野の敵ではなかつた。ともすれば薙ぎ立てられ勝ちである。しかし、今日の彼は常とは變り、頗る落ちつきを示してゐた。餘裕は常のやうに淺野の劍を手許へつけ入らせない、三度に一度は激しい棒が、淺野の身近く衣服の裾を拂ふ程である

それは背後に、藤七の向けてゐる短筒が控へてゐるといふ事が斯くまで御木本の心ゆとりを持たせ、戰ひを有利に導いたのであつた

眼前の障碍物がなくなつたのだ。淺野と御木本の一騎打ち、此の機を外しては最早擊つ時はない。再び短筒は藤七の手にしつかり擬せられたのであつた

と、轟然たる音響!白煙はもう〳〵と四邊に立ちこめる

死か生か――

やがて、白煙は火藥の匂ひと共に風に吹き去られて行つた

嫁と姑 十四

女子勞務者講習會に於て
古河人事係長 前松佐嘉述

母親が嫉妬をしたり嫁を憎んだりするのは若夫婦が一緒になつて自分を除け者にすると云ふ僻みの心から來るのだから『嫁を貰つても決してお母さんは疎んじませんよ』といふ態度を示して能ふ限りの孝養を盡せば普通の母親は好感を持つに相違ありません、其の代り蔭の方では妻に對しては姑に仕へることのつらさに同情し十二分の慰藉を與へなければなりません。妻は如何につらくとも肝腎の夫がそれを理解してくれるとなれば其所に苦痛を打ち消すだけの悦びを感ずる筈であります、然るに世間では往々にして母親に嫁の夫るものが絶對服從して姑のいふが儘になり一際嫁に同情を持たない者もありますが、之れでは嫁の立つ瀬はないのであります。姑に虐待されて嫁が耐へ切れないと云ふのは大概其の夫が無氣力であるか、或は姑に絶對服從して妻の立場を理解しない者かであります

我が妻を慰藉してやる方法は殊さら母親や小姑の前で人目に立つやうにしなくとも夫婦のみに許された世界

即ち夜といふ秘密の世界でありますから此の誰れにも遠慮なき機會に於て幾らでも打ちとけて語り合ひ妻の言ふ事もシンミリ聽いて遣るが可いのであります女性は感情的のものでありますから些細な事をも氣にして非常に煩悶するものでありますから其のやるせない胸を誰に打ち明けて慰安するかと言へばそれは我が夫より他に無いのであります、でありますから夫はこの點をよく呑み込んで、たとへ煩いと思つても妻の愚痴なり、小言なりを快くきいて遣らねばなりません

而して萬一妻に無理があると思へば其れに對し反省を促し、また母親に間違た所があれば適當の機會を捉へてひそかに注意する、かう言ふ調子に中間にある夫たる者が双方の融合を巧みに圖る事になれば十中の八九は無理に解決のつくものと思ひます

廣告
美味で評判の
イワキサロン
平町電三三五二

防寒メリヤス
◎專賣特許毛メリヤス◎
防虫加工純毛メリヤス……三圓・三圓五十錢
防縮加工純毛メリヤス……二圓五十錢・三圓
防虫加工=夏季ノ保存ニナフタリン樟腦ノイラヌ絶對虫ノ喰ハヌ特許製品
防縮加工=御無理ナ洗濯ニモ絶對チヾマヌ特許純毛メリヤス製品………
◎オ婦人向・オ子サン向實用防寒メリヤス・毛製品◎
ヤルツ
平電四一四〇

腕。提。掛。置。時計
眼鏡新型
指輪
ビクター
コロムビヤ
…二月新譜入荷…
金光堂時計店
電話一九五番

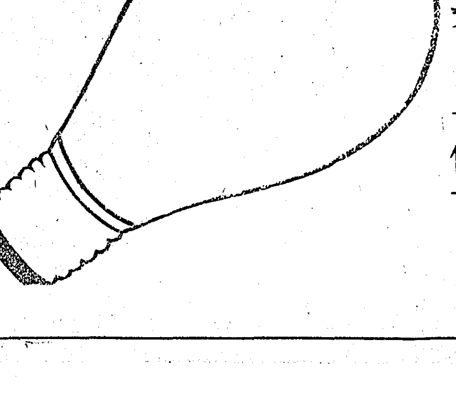
內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡(電話四七五番)
安齊外科醫院

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町(元眞木辯護士跡)
(入院隨意)
增田耳鼻咽喉科醫院
電話 四八二番

良品廉賣に勝る商略なし
金物問屋 和洋銅物
磐城セメント特約代理店
㊅ 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊅の生命なり

耳、鼻、咽喉科 氣管食道科 專門
平町南町 (電一〇七番)
大和田醫院
大和田郡司
(自炊の便あり)

眼科專門
吉田眼科病院
院長 吉田安雄
醫學士 吉田久雄
平町紺屋町 電 六八



ガス入電球ノ値下ゲニ次グ又値下
十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢
御電話ガアレバ屆ケマス。
平三 大谷時計病院
眼鏡科
電話十九番

日本に唯一つ
魂の這入つた
東京工場聯盟の自轉車
指定販賣所
フタバ商會
平。新川町。橋際

夜間診療
胃腸性病
內科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)

入院隨意(自炊の便あり)
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
(電話一二九)
病室完備

ガソリン代の輕減上 極力松方ソ油を支援
平町の自動車關係が結束

昨秋松方ソ油の出現以來、同社が六社協定によつて不當に吊上げられた、對抗してその協定に入らなかつた爲ガソリンは一ガロン五十錢が三十三錢に下落したので地方營業者は自動車一臺に付一ヶ月五、六十圓の負擔が輕減され何れも喜んで居たが最近財界の有力者や商工省なども六社の懇請に動かされて七社協定に乘り出し一方松方ソ油も意外に自動車業者の支持が少くなつたのでこの儘で推移するならば當然その協定に參加せねばならなくなるので目下全國の松方系營業者は極力その反對を絶叫して居り平町約百名の營業者もこれが反對の氣勢をあげるべく
――七社協定は我々の死活問題である、もしこれが實現されたらガソリンは又元の五十錢に値上げされる、これに反對するは全自動車業者の聲である、我々は一致協力してこれが反對を叫び、松方ソ油の徹底的支援を申合せねばならぬ
日午後一時から平署會議室に於て協會支部臨時總會を開きガソリン値上げの阻止をスローガンとして今廿七を協議した

前年中斷行した 增送の實績擧る
次回實施を四月に延期

石炭鑛業聯合會では本年度に於ける百五十萬噸、增送を最初大体二月中に實施する豫定であつたが最近前年度に於ける增送の實績も次第に現れ始め、及びその他の事情でこれを延期し四月に於ける總會後にこれを實施することゝなつた、尙聯合會ではかねてより九大永積博士に依囑して大々的に全國に亘つて出炭能力を調査中であつたがこの大規模調査の結果もいよ〳〵來る四月には判明する運びとなつたので前述の增送も出炭能力判明後の四月に延期したのである

一時間廿七分で、水戶、平間を快走
特急試運轉好成績

常磐線のスピードアップ。輛、大型ボギー三輛編成上野平間超特急四百廸旅客二輛四百廸の該車は午前十速度試運轉は既報の如く昨廿六日から行ひ今廿七日は途中最大時速九十キロの超愈々水戶平間運轉でこれがスピードで午後零時五十二專門的實測をするため本省分後藤驛長を初め出迎への より立松技師、本局より東平驛に無事着車した、此の機關車係長及水戶運輸所長所要時間一時間二十七分でを初め田中主任、松本係長豫定時間より一分早着と云の一行を乘せたコウ鐵車四ふ好成績である

ツバメに劣らぬ速力
入山炭の眞價も判明

水戶驛を發車した重量四百噸の該超特急車は途中發車當時は各驛で二秒乃至十九秒遲延したが助川、小木津間時速六十九キロ二分を超速序曲として最高速平、綴つたとで驀進、前記の如く豫期以間八十六キロの快スピード上の好成績をあげたわけでこれは現在東海道線を我物殆と變りないもので平均時た使用炭は夕張、入山五坑の最速六十四キロ、尙これに使優良混合炭千四百キロであつたと

案外樂だつた
小田機關手談

小田機關手は昨年九月水戶主催管內客車運轉競技會に一等を獲得し自信に滿ちた優良技術者で左の如く語つた

磯原以北はカーブの爲の速度制限の個所が多いので運轉しにくかつたが風速なども順調で割合に樂で殆ど常と變らなかつた

特急運轉 近く實施か
中村水運所長談

同乘の中村水戶運輸所長は降車直後昨日の上野水戶間二分早着に次ぎ今日は一分三十秒早着で成績は豫期以上であると前提して左の如く語つて居た

―上野平間の所要時間は三時間十五分で現在の一時間十分短縮である、これが實施ははや準備萬端を整へて近く開かれる局長會議に提示、各局長の了解を求めた上になるので遲くも今春三月末までになる見込みで現急行の外下りは上野發午後五時上りは平發午前七時三十分になるであらう

五時間十七分
來月三、四兩日に試運轉
平、盛岡間

上野―札幌間の超特急試運轉、平、盛岡間は來月三四の兩日行ふことに決定したが此の間の所要時間は五時間十七分で主要驛の通過時間は左の如くである

(三日)盛岡發午前七時二十分、一ノ關八時四十一分、仙臺着十時十五分發午後一時三十分平着午後三時五十二分

(四日)平發午後十一時仙臺着一時三十四分

消防組頭會 來る卅日開き

日午前十時から平署會議室に開き來月開かれる幹部會に就いて協議する、又植田消防組頭會は明後廿九日午前十時から同署に於て開催する

町役場內納稅組合改選

昨廿六日開き左の如く役員改選を行つた

組合長大河原金之助、副組合長四家久米治、會計江尻幸平

鈴木孃高師合格

四倉町新町五三磐女昨年卒業鈴木エイさんは此回の東京女高師(理科)入學試驗に合格した旨今二十七日母校に通知あつた

愛婦新會員開拓
知事夫人明後來平 第一線に立つて活動

愛國婦人福島支部では今回平町附近各村より七百名の新會員を募集する爲明後廿九日午後零時五十五分着で支部長畑山知事夫人が來平同日一時半より平署會議室に於て飯野、高久、豐間、內郷、好間、赤井、永戶、澤渡、神谷、平窪、小川、川前の十二分區長を招集前記勸誘の方法及總會の準備などに就き種々協議する事になつたと

强豪六十名參集
大接戰を豫想さる
明日の濱三郡卓球

濱三郡第三回卓球大會は愈々明二十八日午前九時より第三校で開催されるが今二十七日〆切りの參加者六十餘名に上り當日の大接戰を豫想され今二十七日は午後一時より同校で役員會を開き準備に就て打合せをなした

第一校優勝
昨日の敎員卓球

既報―第二、第一校職員對抗卓球戰は昨廿六日午後二時から第一校で開かれ第一回四對一第二回四對零で何れも第一捷つたメンバー左の如し

第一回戰

(第一)水竹、佐藤、橫田、古川、井上、(第二)野原、橋本、熊谷、玉手、渡邊

第二回戰

(第一)水竹、佐藤、井上、橫田、(第二)吉田、松本、海野、野原、

七七宮城兩行株主總會
昨日配當決議

小原良武氏が支店長として他縣支店銀行に稀なる成績を擧げつゝある七十七銀行第四期末株主總會は昨二十六日開催されたが今期成績左の如し

當期利益金三一七、七一一、〇二五 法定準備金四〇、〇〇〇、〇〇〇 任意準備金六〇、〇〇〇、〇〇〇 行員退職給與資金三〇、〇〇〇、〇〇〇 配當金(年五分ノ割)一一〇、一五九、三七五 後期繰越金七七、五五一、六五〇

尙は襲に七十七銀行平支店長として縱橫の手腕を發揮した山田勇太郞氏の專務取締役たる宮城銀行でも同日第五期株主總會を開き左記利益金處分を決議した

醫學集談會
明後夜共濟病院で

平町磐城共濟病院醫學集談會第二回例會は明後二十九日午後七時より同院醫局に於て開催

一、新染色法による『グラム陽性菌の分類』(臨床檢査部主任高後利雄氏)

一、アクチノミーゼの一症例(外科部長有馬勇二郞氏)

の講演あると

當期利益金壹萬貳千九百參拾八圓五拾六錢、內法定準備金貳千圓、配當金(年三分ノ割)金四千四百貳拾五圓 後期繰越金六千五百拾三圓五拾六錢

殆ど全校擧つて 平商健兒の精進
寒稽古の出席九割二分

平商校の武道寒稽古は既報の如く昨二十六日を以て終了したが出席柔道二百四十二名、劍道百三十名、合計三百七十二名で全校生徒數四百五名の九割二分と云ふ好成績で皆勤者左記百四十三名は來日九月の納會に夫々賞狀を授與されると

	柔	劍
一甲	一四	一三
一乙	一四	八
二甲	一七	二
二乙	一三	六
三甲	一三	四
三乙	九	七
四甲	五	二
四乙	九	五
五	―	二
計	九四	四九

平靑訓擴張
着々勸誘に努む

平靑訓では此回の査閱成績全てが好く唯出席率及び部員の少かつたのに鑑み此の際大いに勸誘、部員の擴張に努める事になつた、現在晝夜間部合せて約七十名の部員あるが當町としては約百二三十名位に增員の餘地あるので幹部後援會協力少くとも百名位を目指して着々勸誘に努ると

第三校擴張の 地主一名承諾
他も漸次好轉か

平第三小學校の土地買收委員會は此程最後の肚を極めて過般來五地主に交涉を進めた結果、町側の坪三圓に對し橫濱市齊藤又三郎氏代理である南町大谷直次郎氏が承諾したので近く依然態度强硬な五丁目酒井常吉氏外三氏に交涉を開始する事になつたが周圍の空氣から觀て他も漸次好轉に入るではないかと

稍々下火だが 尙は警戒續行
各小學の流感對策

各小學校の感冒も下火となり缺席兒童も大分登校し始め豫定の二週間も明後に迫つたので授業時限も通常に復す筈であつたが尙は左記の缺席數あり未だ警戒を要するので來週一ぱい從前通り九時始業の四十分授業を續ける事になつた

	第一校	第二校
二十日	一四七	一六四
廿二日	八一	一一一
廿三日	六九	一〇八
廿四日	五四	八四
廿五日	四七	七九
廿六日	四〇	七六

同時にチフス四名
蔓延を氣遣はる

平町四軒町二七猪狩政秋(三三)材木町一久吉妻池上フク(五三)娘トク(二四)及び運送業左右工門息馬上五郎(五)は昨晚から今朝にかけ腸チブスと判明何れも收容されたが同一町內から一度に四名の隔離で此後の蔓延を氣遣はれてゐる

宿料を踏む
賢電工 昨日書類送檢さる

自稱郡山市東部電力會社電工田部貞夫(三四)は舊臘廿八日午後五時頃赤井村字髙お旅館亀屋事渡邊フキ方に至り電氣監督員と稱して五日間滯在元日朝電氣事業の監督に行つてくるからと稱して宿料十餘圓を踏倒して逃走したが此程平署に檢擧昨廿六日書類を送檢された

上水道九年度分工事豫定
此程委員會で協議

平町水道部では此程委員會を開き來年度事業として大町、新川町を經て月見町に至る延長三百四米の六吋鐵管敷設この工費約千圓をはじめ合計十一ヶ所の埋管其他正月町外三ヶ所の消火栓工事を協議した

金比羅祭に 臨時列車運轉
平驛で目下準備中

湯本町關船金比羅神社の例祭は來月廿三日執行するが例年多くの人出で雜沓するので平驛では當日は臨時一本を增發すべく目下準備を進めて居る

水局購買協議

水運管內購買支部の相談會並に評議員會は明後二十九日同事務所に於て開催されるが平驛からは後藤驛長外三名が出席すると

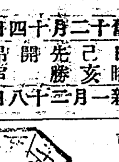
埃の巷

內郷村大字金坂一五一野澤源次郎(三九)は昨廿六日夜十一時頃平町平館前を通行中突き當つた三人組の暴漢に散々毆打され顏面數ヶ所に打撲傷を負つた口惜し紛れに南町カフエーモンブランで呑み初め看板の十二時になるも歸らず遂々今曉三時頃まで飲み明かし貸切自動車で悠々引き上げたと

	二十八日	二十九日
日出	六、四五	六、四四
日沒	五、〇四	五、〇五
月出	後二、四二	後三、四〇
月沒	前五、〇七	前五、四九
滿潮	前五、五〇 後三、一〇	前六、一〇 後四、〇五
干潮	前一〇、三〇 後一〇、四五	前一一、〇五 後一一、一五

大寒 前二、三七

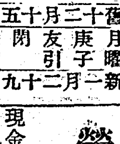
日曜 新一月二十八日 舊十二月十四日 己亥 先勝 開 昴宿



諸判定鑑常 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部

▲一白の人 苦勞境大して利益の些少なる日大望控へよ▲二黑の人 運氣優秀にして計畫は良轉し利じゆんを獲得す▲三碧の人 意に滿たぬことに焦ることなく辛抱大切なり▲四綠の人 目に立つ發展を見る日開店營業移轉等に吉▲五黃の人 禍轉じて福を招き入るゝ兆あり怠らず勵め▲六白の人 窮乏の度甚しく展開容易ならず萬事適む凶▲七赤の人 多種の障害頻出すべく計畫を捨て分を守れ▲八白の人 事業有利に運ばるゝも甘言に陷る恐れあり▲九紫の人 消沈せる氣を引立て本業に出精するが吉

月曜 新一月二十九日 舊十二月十五日 庚子 友引 閉 畢宿



▲一白の人 身心動搖じて執着に乏しく有や無やに歸す▲二黑の人 自負心强く頑固に過ぎ失策を生ずる事あり▲三碧の人 志望達せざるに非れど相談事調はざるべし▲四綠の人 實直なれば才能を認められて登用せらる▲五黃の人 剋害克く障害を退け志望達成の域に進まん▲六白の人 氣運は燃えのこりの餘溫あるのみ自重が專一▲七赤の人 現狀に滿足して他意ある可らず病難に注意▲八白の人 運滯多く諸事成り難し開店營造作轉宅凶▲九紫の人 運氣退散の日勢に逆りて失敗を招きやすし

貸借對照表
第四期 昭和八年十二月三十一日現在

資產(借方)	金額
現金預ヶ金勘定	五、八一七、九八九・〇二八
現金	四、二一七、九三七・三五八
預ヶ金	一、六〇〇、〇五一・六七〇
(內日本銀行へノ預ヶ金)	(八〇四、〇九二・二三〇)
コールローン	一、三七〇、〇〇〇・〇〇〇
有價證券勘定	九、一七八、四九一・五三〇
國債	五、七九七、七四七・四八〇
(內手許在高)	(一、五一四、〇八一・五五〇)
社債	八五三、一二三・〇三〇
株式	二、五二七、六二三・〇二〇
割引手形勘定	一、八七八、九六五・七三〇
商業手形	二九七、一四七・九三〇
荷付爲替手形	九三五、七七一・二八〇
受取手形	六四六、〇四六・五二〇
貸付金勘定	五六、六一三、九四五・三四〇
手形貸付	三一、〇二一、三三七・五一〇
證書貸付	一四、七五四、八六六・三三〇
當座貸付	九、八三七、七五一・五一〇
他店貸	六六四、五三九・三〇〇
支拂承諾見返	一四、二一八・六二〇
雜勘定	二六六、二四六・三三〇
假拂金	二六六、二四六・三三〇
動產不動產勘定	九、七三二、八六四・二八〇
營業用土地建物什器	二、四〇七、〇五四・四三〇
所有動產不動產	七、三二五、八一九・八五〇
株主勘定	四、五九三、六二五・〇〇〇
拂込未濟資本金	四、五九三、六二五・〇〇〇
合計	九〇、二八〇、八九五・一五八

負債(貸方)	金額
預金勘定	七一、七三六、五二九・八八三
當座預金	三、八八二、九八七・六六〇
特別當座預金	一五、四四二、九四三・四六六
通知預金	六五七、五一五・九五〇
定期預金	三七、二一四、九四〇・二八二
別段預金	五、五三八、一四二・三四五
借用金勘定	六〇〇、〇〇〇・〇〇〇
借入金	六〇〇、〇〇〇・〇〇〇
コールマネー	六、一九〇、〇〇〇・〇〇〇
他店借	一、〇五〇、三九〇・四七〇
支拂承諾	一四、二一八・六二〇
雜勘定	九三、〇四五・一六〇
未拂配當金	一五、四六二・二五〇
未拂利息其ノ他	三七六、六二六・〇六〇
未經過割引料其ノ他	一五八、七八二・八〇〇
預金利子諸稅	三五、〇二六・五九〇
假受金	二、五九二・八〇〇
未拂送金爲替	一六九、八〇九・五八〇
行員身許保證金	一五一、九五三・六四〇
行員恩給金	二、七九一・四二〇
株主勘定	九、六七七、七一一・〇二五
資本金	九、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定準備金	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇
任意準備金	一五〇、〇〇〇・〇〇〇
行員退職給與資金	六〇、〇〇〇・〇〇〇
當期利益金	三一七、七一一・〇二五
(內前期繰越金)	(四四、四〇九・三二〇)
合計	九〇、二八〇、八九五・一五八

利益金處分	金額
當期利益金	三一七、七一一・〇二五
法定準備金	四〇、〇〇〇・〇〇〇
任意準備金	六〇、〇〇〇・〇〇〇
行員退職給與資金	三〇、〇〇〇・〇〇〇
配當金(年五分ノ割)	一一〇、一五九・三七五
後期繰越金	七七、五五一・六五〇

右之通相違無之候也

昭和九年一月二十六日

仙臺市大町四丁目

株式會社 七十七銀行

取締役頭取 伊澤平左衞門
取締役副頭取 氏家淸吉
專務取締役 中村梅三
常務取締役 木村淸五郞
取締役 伯爵 佐久間俊一
取締役 谷井文藏
取締役 小野惣助
取締役兼支配人 山田萬七
取締役 佐藤鐵郞
取締役 橫山勘助
常任監査役 中山壯輔
監査役 八木久兵衞
監査役 福島禎藏
監査役 大庭彥六郞
監査役 工藤延治郞

監査役改選ノ處八木久兵衞、福島禎藏、大庭彥六郞、工藤延治郞ノ四氏再選重任中山壯輔氏退任相成候

第七十六期營業報告書
貸借對照表

資產(借方)	金額
現金預ヶ金勘定	八二、八四〇・六六〇
現金	三二、八四〇・六六〇
預ヶ金	五〇、〇〇〇・〇〇〇
有價證券勘定	七九、五三八・〇〇〇
國債	三三、一〇七・〇〇〇
社債	一一、〇〇〇・〇〇〇
株式	三五、四三一・〇〇〇
割引手形勘定	二六、六一四・八六〇
商業手形	一〇、六五一・三三〇
荷付爲替手形	一五、九六三・五三〇
貸付金勘定	六四九、五三一・八〇〇
手形貸付	三八九、四〇八・一一〇
證書貸付	一七二、五〇二・一三〇
當座貸越	八七、六二一・五六〇
他店貸	一三、四四五・二七〇
動產不動產勘定	一七、二二三・五七〇
營業用土地建物什器	一六、九三九・三四〇
所有動產不動產	二七四・二三〇
假拂金	二、三八四・二三〇
株主勘定	三五一、五〇〇・〇〇〇
拂込未濟資本金	三五一、五〇〇・〇〇〇
合計	一、二三三、〇九八・三九〇

負債(貸方)	金額
預金勘定	五九〇、六六七・五一〇
當座預金	四五、二六三・八八〇
特別當座預金	二三八、八〇六・三〇〇
通知預金	一二二、八七一・七四〇
定期預金	一八四、七二五・六〇〇
借用金勘定	六六、一五〇・一四〇
借入金	二一、一五〇・一四〇
當座借越	四五、〇〇〇・〇〇〇
他店借	一一七、三四〇・六五〇
雜勘定	七、一六一・七三〇
未拂配當金	四一・九八〇
未拂利息其他	四、二二六・六八〇
未經過割引料其他	一七・一九〇
預金利子諸稅	五七〇・七八〇
行員身元保證金	二、二二五・一〇〇
株主勘定	五四七、三四四・三五〇
資本金	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定準備金	三九、四〇〇・〇〇〇
退職給與基金	三、八〇〇・〇〇〇
當期利益金	四、一四四・三五〇
(內前期繰越金)	(一、七五七・四四〇)
合計	一、二三三、〇九八・三九〇

利益配當案

一金四、一四四・三五 當期利益金

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

一金二五〇・〇〇 法定準備金

一金一〇〇・〇〇 退職給與基金

一金一、七五〇・〇〇 株主配當金(年貳分四厘)

一金二、〇四四・三五 後期繰越金

昭和九年一月二十六日

福島縣植田町

株式會社 磐東銀行

取締役頭取 江尻博孝
專務取締役 金成欽次
取締役 金成通
取締役 岡山保治郞
取締役 馬上誠一
取締役 兒玉萬平
取締役支配人 金成金三
監査役 古川傳一
監査役 藤田淺之助
監査役 久保木榮作

平町新川町
木村病院
電話 一六四番